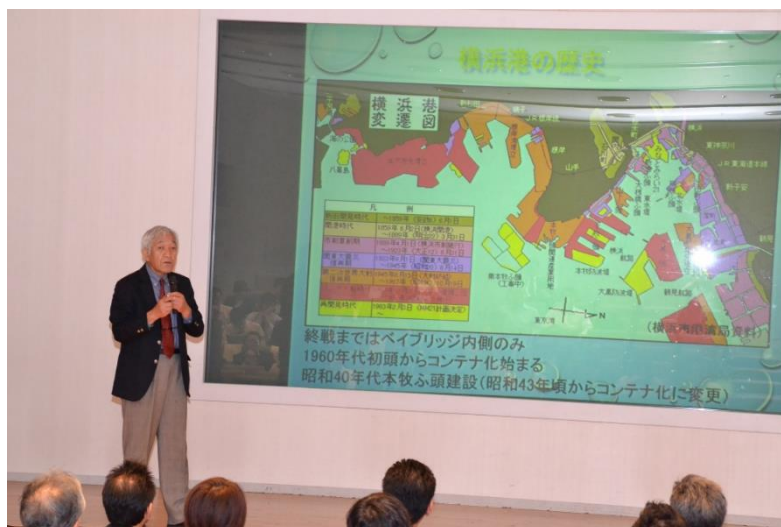


## 国際交流 WG フォーラム 「第1回新潟国際化デザインコンテスト」開催のご報告



平成29年9月30日(土)「クロスパルにいがた」映像ホール(4階)において、県内外5大学の学生の皆さまによる「第1回新潟国際化デザインコンテスト」を開催することが出来ました。『住みよい街、新潟の探求』をテーマに、大変興味深いプレゼンテーションがなされました。おかげさまで企業、経済団体、大学、高校、自治体を中心に80名以上の方々にご参加いただけました。プログラムは、基調講演→学生コンテスト→パネルディスカッションで進行了ました。

基調講演は、鳥取大学特命教授の野田邦弘氏が「少子高齢化・長寿化を迎えた社会における国際文化創造都市構想」という論題で、横浜市職員として文化芸術都市創造事業に関わられた事例を踏まえつつ、現在の鳥取大学での活動を加味して理論と実践の両面から大変示唆に富んだ講演をしていただきました。



<基調講演風景>

学生コンテストのテーマは以下の通りでした（発表順）。

事業創造大学院大学チーム：『新潟の魅力を活かしたインバウンド推進～留学生の目からみた観光地新潟～』

新潟大学チーム：『ムスリムが住みやすい街新潟を目指して』

新潟県立大学チーム：『十日町の魅力を活かすために』

新潟国際情報大学チーム：『サブカルチャーを通じた新潟の魅力発信～新たな古町～』

青山学院大学チーム：『「留学生に住みよい街、新潟の探求」“Why JAPAN is in NIIGATA”プロジェクト【留学生×日本人学生 NIIGATA 応援隊】』



< 学生発表風景 >

結果は、最優秀賞：新潟大学チーム、優秀賞：青山学院大学チームでした。特別賞として、メイド・イン・ツバメ賞：青山学院大学チーム、新潟県異業種交流センター賞：新潟県立大学チーム、新潟経済同友会賞：事業創造大学院大学チームでした。新潟国際情報大学チームのサブカルチャー（漫画文化）から古町活性化を提案する企画は、賞は逃しましたが個人的には大変可能性を感じたご発表でした。

パネルディスカッションは、基調講演に登壇して下さった野田氏に加えて、現在島根県津和野高校でコーディネータをしておられる牛木力氏が、バークレーでの学びを活かした津和野高校での実践事例を紹介いただきました。青山学院大学教授玉木欣也氏からは、インバウンド戦略に向けた阻害要因の対策とダイバーシティカルチャ対応に関して多くの実践事例を踏まえて、新潟への適用可能性を示唆していただきました。新潟大学教授佐藤孝氏からは毎年多くの留学生を受け入れている経験を踏まえて新潟大学グローバル教育センターの活動を紹介くださいました。パネルディスカッションを通じて、多様な視点から新潟が国際文化創造都市へと発展するためのヒントが得られたと思います、特に「大人と子供の関係性修復」という言葉の意味の深さを真摯に受け止めると同時に、「住みよい街、新潟の探求」の重要性を再認識させられました。



<パネルディスカッション風景>

今後もこのような多様な地域間、産官学連携での刺激に富んだ知の融合が進み、新潟が国際文化創造としへと成長していけることを願います。

最後に、会場で協力いただいたアンケート結果（対象者 83 名、回答数 57 名）においては、新潟の国際化、インバウンド、文化創造都市、街づくり、人材教育といった内容への関心が大変強かったことが伺えました。自由回答には、「発信のしかた次第で、新潟に対する認知があがると思う」「若者の可能性、新潟の可能性に期待する」「人を集めてこれからの国際社会をめざさなければいけない」「仕事観、労働観に関する、地方企業の経営者・管理職層と若者とのギャップがあると思う。だから、東京に人が流出しているのではないか。その断絶を解消する必要があるのではないか」等々の基調なご意見を頂戴できたことに感謝いたします。

今回のフォーラムでは、新潟が魅力のある国際文化創造都市になるために、留学生のまなざしから住みよい街新潟を探求しました。今後、ツーリストのまなざし、医療のまなざし、日常のまなざしへと、発展的に探求を進め、“新潟がより住みよい街”になっていくために少しでも貢献できればうれしく思います。